



『耳納風土記』⑤

太古の芸術作品～芸術が爆発していた日岡古墳～

ひのおかこぶん

前回の「装飾古墳のススメ」を受けまして今回紹介いたしますのは、若宮古墳群の一つ、言わずと知れた国指定史跡日岡古墳です。日本史の教科書や資料集で写真を見た方、または小学生時代に見学した方、そして更には石室の中で遊んでいた方等様々いらっしゃると思いますが、そんな身近な古墳が一体どんな古墳なのか、少しご興味を持っていただければ幸いです。

日岡古墳は若宮八幡宮の道を挟んで東に位置する全長74mを測る前方後円墳で古墳の周りには一重の周溝しゅうこうがあります。横穴式石室よこあなしきせきしつを持ちその石室全面に装飾を描いた古墳です。そもそもこの日岡古墳、突如この地に彗星のごとく現れた被葬者ではなく、古墳時代中期（5～6世紀）のこの辺りの権力者の三代目のお墓にあたります。まず隣接する月岡古墳が初代のお墓で、当時の政権と密接なつながりを感じさせる畿内要素を強く持つ前方後円墳です。次の二代目、210号線バイパス沿いにある塚堂古墳つかどうこぶんは畿内的要素と在地（地元）要素を兼ね備えた前方後円墳です。最後に装飾古墳という完全に在地に染まった三代目、日岡古墳という流れでこの地に存在しており、この3基を併せて若宮古墳群といいます。



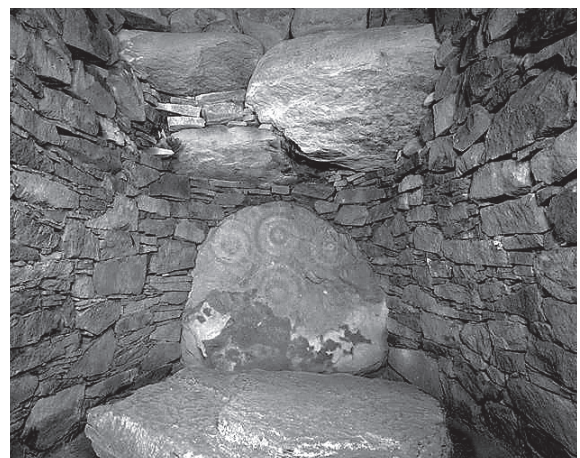
日岡（ひのおか）古墳上空から

三代目にして突如、古墳石室全面を装飾した日岡古墳ですが、実はこれ以前に造られていた装飾古墳とは異なる表現方法を用いています。日岡以前の装飾古墳は、石を彫って文様を描く線刻せんこくや浮彫うでぼりという方法を用い、色を付ける場合もその線刻によって区分けされた場所を塗る、いわゆる塗り絵的な方法で描かれていますが、日岡古墳は最初からその色で形を描いており正に絵を描くように石室全面に装飾を施しています。



日岡古墳石室入り口

在地に染まるだけに留まらず、新たな表現方法を用いたなんとも前衛的な装飾古墳なのです。そしてその奥壁には6つの同心円文とその隙間を埋めるように蕨手文わらびてもんが、上部には三角文が描かれています。この6つの同心円文は、太陽もしくは鏡、または的、といった意味があるのではないかとされていますが、はっきりと断定することはできません。蕨手文は実在のわらびを描いたわけではなく、生命の再生等を象徴する意味で描かれたと考えられています。側壁には同心円文・三角文、そして馬や舟、魚、盾、太刀、鞆ゆき（矢を入れる道具）等が全面に描かれています。この全面に描かれた装飾から物語性を見いだすことは難しいのですが、死者への強い思いがあったことは間違いなideしう。



日岡古墳奥壁

この日岡古墳がどのようにして見つかり保存されるに至ったのか、その話は明治時代までさかのぼります。日本初の人類学者である坪井正五郎は九州出張の際、月岡古墳と日岡古墳の話聞き興味を持ち、明治21年（1888）、日岡古墳の発掘に着手します。文化2年（1805）に発掘された月岡古墳から多くの出土品が見つかったため、日岡古墳にも月岡古墳と劣らないもの出土するだろうと踏んで調査に臨みますが、意外にもわずかな破片しか見つからず発掘関係者や見学者は肩を落とし、見学者は散り散りに去っていきます。坪井は乏しい調査成果で帰らなければならないことに落胆していましたが、奥壁を熟視したところ奥壁の同心円文に気づき、急いで壁面を水で洗い確認すると石室全面に施された装飾を発見します。この時の様子を坪井は「次第次第に濃くなった黒雲が急に吹き拂はれて日本晴と成たような心持が致しました、余人は知らず私に取ては金環玉杯が十や二十出たよりは嬉志くかんじました」と記しています。この後、坪井は木造覆屋を建て装飾の保存を行っており、この覆屋は現在の保存施設の北側に移設されています。発掘当初から石室の天井石が落ちていたため、覆屋内部の床部分に観音開きになるように鉄扉が取り付けられています。日岡古墳近辺の方は、この旧覆屋の扉を開けて下まで降りて石室で遊んでいた方もいらっしゃるのではないのでしょうか？現在の保存施設も当時を踏襲する形で上から覗き見る形で見学できます。

三代目にして地元染まり、染まっただけでなく新たな表現方法を試し、その後の装飾文化にも影響を与えたであろう日岡古墳は様々な人の手を経て現代まで守り伝えられています。



日岡古墳旧覆屋

日岡古墳発掘調査を指導した
坪井正五郎（1863～1913）

日岡古墳奥壁実測図

古墳見学のご案内

毎月第3土曜日に装飾古墳の珍敷塚古墳・日岡古墳に加え、月岡古墳・楠名古墳の一般公開をしています。うきは市郷土史会の史跡案内グループが現地解説をします。見学日の5日前までにお申込下さい。

※現在新型コロナウイルス感染拡大防止のため、申込み人数によってはお断りさせていただきます。ご了承ください。

●問合せ・申し込み

吉井歴史民俗資料館 ☎75-3120